

大田区自立支援協議会 相談支援部会要旨

文責：(中越・障がい者総合サポートセンター一部修正)

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 相談支援部会 (第1回)			
(2) 開催日時	平成30年5月23日(水) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	委員 (部会長：神作委員)			
	古怒田 幸子	野崎 陽一郎	鈴木 啓太	関屋 慶子
	茂野 俊哉	渡邊 真由美	中越 祐一	田中 隆博
	重清 国夫	大窪 恒	山田 悠平	
	区職員出席者 仁部係長 (大森地域福祉課) 小川係長 (蒲田地域福祉課) 江口係長 (糞谷・羽田地域福祉課) 金子係長 (蒲田地域健康課) 徳留係長 (上池台障害者福祉会館)			
事務局出席者 障がい者総合サポートセンター：木伏係長、森田、柳田				
(5)内容・要旨	1、2は省略 3、連絡・確認事項 部会長選任の確認⇒「資料5」第7条にもとづき会長指名により選任された。 自己紹介⇒今年度取り組みたい課題共有を行った。 司会/書記の決定⇒「資料2」の通り 本会報告⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第3回：部会のみ委員にアンケート実施した。委員の意見集約を目的に、第3回本会で共有化した。アンケートから抽出した課題検討も実施した。(合同部会、部会間同士の連携のあり方など) ・平成30年度第1回本会：「資料4」資料参照 ・自立支援協議会の体系図：「資料6」前年度との変更点として、合同部会を実施する。(5部会合同)年1回9月の実施を予定する。各部会間で必要に応じて連携を図る。相談という側面だけでなく、各部会との連携により、課題の抽出のための部会間での連携が必要となる。(昨年度18歳問題の個別支援会議を行いこども部会の参加をいただいた)各部会からの参加やオブザーバー参加等も柔軟に行っていく。 ・本会は4月20日、10月26日、3月中旬で実施予定である。 ・編集会議は、自立支援協議会だより作成のため。年に2回(7月、2月発行) ・運営会議は、第1回5月実施。本会会長副会長、部会長参加。協議会の目的をより具体化する。会長より「石橋を叩いたら渡ろう。それぞれの『一歩』で。」という言葉があった。今までの協議会で多くの課題抽出を試みてきたのだから、今年度は、解決にむかい「渡ってみる」勇気を持とう、一歩前に出ようという説明もあった。 また、協議会の活動を時間軸と空間軸で捉えたい。具体的には、時間軸(児童から18歳、65歳のかべ)は、制度で切れがちだが、切れ目のない、流れ			

ていく人生を相談支援としてどう捉えるかを大切にしたい。そして、空間軸は、社会資源、相談体制等現状の仕組みから捉えることができるというものだった。

全体に共通する「きなり」の暮らしへ～「つながる」「わたす」「ひろげる」～というテーマのもとに協議会を行っていききたい。生成という飾り気の無い、染まっていない布のように、ご本人が自分らしさを実現できる大田区にしていくという意識で各部会で取り組んでいきたい。

部会では、その時に必要なテーマを柔軟に取り上げていくが、今年度は上記テーマを念頭に行う。

部会の開催回数は、部会ごとに決め、共通する地域課題は、各部会同士連携を図る。地域課題は、今できること、時間が必要なことを整理し、問題解決を協働の観点で検討する。

7月と2月におおた障がい施策推進会議が行われ、それに反映させることも部会の活動から検討したい。

委員さんから：

資料3から当事者委員の参加によるバランスの取れた話し合いについて、
⇒本会も当事者、家族、団体が出ている。各種参画していただきながら意見を大事にしていきたい。

部会長の判断で、当事者の参加(オブザーバー)もありとのことを積極的に行ってほしい。当事者が参加がすることの必要、まだ少ないため場を設けていきたいと伝えてほしい。

⇒例)65歳問題について、当事者65歳以上の意見聴取等幅広く聞いていきたい。

地域移行の部会も入っているので、実際にいつどのテーマを行うか確認したい。合同テーマの場合の部会の進捗等もあるため積極参加したい。

⇒複数部会参加の方もいるため、サポートセンターで事務局を行うため部会のスケジュールを検討している。きなりの暮らしへ 石橋を叩いて渡ることについて、石橋を叩かせてくれない、石橋が壊れるまでやる。リスクや冒険をする権利も踏まえていただきたい。

⇒意見として承り、現状を念頭に置いて部会として検討していきたい。

合同部会は9月に参加予定。初めての取り組みのため準備が進むか未定。

茂野：

合同部会ができ、相談部会でやりたいことは聞かれたがそもそも協議会は何をするかが明らかでなかった。全体として検討しなければならぬものが細分化されてきた。個別支援会議から地域課題を抽出する本来機能を相談部会に任せてしまった。協議会全体で提示し検討することが必要であるため合同部会は重要と思われる。抽出課題を議題となる課題を出していきたい。

⇒各部会で役割分担があるため、まだ取り組めていない課題「権利擁護」などそれぞれの部会で検討することもあってもよいのではないかと。共通課題にして

投げかけ検討することを検討している。

・作業部会⇒あえては決めず年間スケジュールで日程を決め参加可能、テーマに必要な方に参加してほしい。全部出るという負担を軽減する。年に4回実施予定

・編集委員⇒後ほど個別に依頼する。

4、検討事項

(1) 昨年度経過共有「資料 8」参照個別支援会議の実施方法変更(架空事例) 本会資料に事例提出できている。今できる、時間をかけることで分けて検討している。解決検討までは追い切れていないため、今年度の課題とする。

(2) 平成 30 年度検討課題⇒報告書 P33 の内容とする。そこから肉づける。

意見：

課題抽出からどのように解決していくかを具体的にしたい。

課題が見えている事例を検討した感がある。ここでしかできない取り組みは何かを検討したい。

連絡会おおたで事例検討ができてきた傾向にある。部会における会議は必要な事例を精査して議論する必要のある事例を抽出して行う必要がある。何のために行うか議論は空転するため事例を通したほうが良いか、抽出課題を議論するまでに至らなかった。課題を柱に据えた検討を行ったほうが良いと思う。

事例検討は大切であるが、事例に対する背景の分析等が必要である。

抽出して施策への反映を踏まえることと、個別事例検討自体を深めるとすると回数が少ないのではないか。

個別支援会議が相談と協議会の肝は、今起こっていることの課題となる。今起きていることをどうしていることの話はできたが、解決を検討ができるとよい。

研修会について、相談部会の参加の数字について、もっと広く参加のできるテーマがあるとよいのではないか。⇒内容が限定的であったためか。

研修に参加して、疑問点が解消され家族会でも共有を図った。

個別支援会議はリアルな事例で課題を抽出する必要がある。なぜ起こるかの深めも必要であるが、個別解決だけでなく地域課題を抽出する必要がある。事例検討中で地域課題の抽出をすることを念頭に、解決を含めて検討することとする。併せて体制のあり方も検討したい。

8 月は場所の確保が難しい。8 月実施はなしとする。今後の検討で実施回数は決めていく。

(3) 年間スケジュール⇒「資料 11」予定は必要により変更する。意見：8 月に実施してもよいのではないか？目的をもって行うため喫緊テーマを確認したい。9 月合同部会は上旬を予定。

意見：このタイミングで決めたほうが良い？今年何を決めるかにより実施回数

<p>を検討したほうが良いと思うが。⇒今年度の実施内容を検討の上決める。</p> <p>(4) 次回部会 6月20日その前に作業部会を行う。医療連携、65歳問題、相談先、重度者の行き先、権利擁護、ぴあサポートなど</p> <p>(5) 合同部会 開催日アンケートを実施。時間の目安は、10:00～12:00 13:30～15:30を予定日付の決定は、5月中に集約して決める。</p> <p>資料9、10について： 相談支援体制のあり方について、基幹相談、計画相談のあり方など資料確認をいただきたい。</p> <p>○第2回 日時 6月7日(水) 9時30分から12時 場所 さぼーとぴあ 5階多目的室</p>
--